

講座名（専門科目名）	消化器内科学	教授氏名	小玉 尚宏
学生への指導方針	日常診療から生じる臨床的課題を起点として、基礎研究、トランスレーショナル研究、臨床研究を有機的に統合し、消化器疾患の本質解明と新たな知見・エビデンスの創出、新規診断・治療法の開発につなげる研究者・医師の育成を目指しています。自主性を重んじ、既成概念にとらわれず中立的に結果を考察する姿勢を養い、基礎研究から臨床応用まで一貫して学べる環境の中で、研究立案力、解析力、発信力を高められるよう指導します。		
学生に対する要望	臨床研究・基礎研究を問わず、消化器疾患の本質に迫ろうとする知的好奇心と主体性を持ち、積極的に研究に取り組むことを期待します。多職種・多施設・国内外研究機関との連携の中で研究を進めるため、協調性とコミュニケーション能力、ならびに自ら課題を設定し粘り強く探究する姿勢を重視します。		
問合せ先	(Tel) 06-6879-3621 (Email) kikaku@gh.med.osaka-u.ac.jp	担当者	田畑 優貴
その他出願にあたっての注意事項等			

(以下教室紹介)

当教室では、肝疾患、胆膵疾患、消化管癌、炎症性腸疾患を対象に、分子病態の解明から新規診断法・治療法の開発まで幅広い研究を行っています。日常診療から生じる臨床的課題を起点として、基礎研究、トランスレーショナル研究、臨床研究を有機的に統合し、消化器疾患の本質解明と新たな知見・エビデンスの創出、新規診断・治療法の開発につなげることを目指しています。大学院教育においては、自主性を重んじ、既成概念にとらわれず中立的に結果を考察する姿勢を養い、基礎研究から臨床応用まで一貫して学べる環境の中で、研究立案力、解析力、発信力を高められるよう指導しています。

肝疾患領域では、慢性炎症、線維化、前癌病変、発癌の分子機構や、肝星細胞・類洞内皮細胞・免疫細胞を含む微小環境との相互作用の解明を進めています。また、MASLD、アルコール性肝障害、ウイルス肝炎を含む慢性肝疾患の病態理解と新たな治療標的の探索にも取り組んでいます。特に肝癌は重要な研究テーマの一つであり、腫瘍細胞、免疫細胞、間質細胞が形成する癌微小環境を包括的に解析し、臨床検体および動物モデルを用いたマルチオミクス解析を通じて、免疫療法の治療効果や抵抗性を規定する分子機構の解明、ならびに治療効果予測や抵抗性克服につながるバイオマーカーの探索を進めています。胆膵領域では、炎症や線維化を背景とした前癌病変から癌に至る病態進展の解明と、EUS・ERCPを核とした診断・治療戦略の最適化を進めています。消化管領域では、消化管癌の発生・進展機序の解析、内視鏡診断・治療の高度化、新規治療標的やバイオマーカーの探索、低侵襲治療法の開発に取り組んでいます。また、炎症性腸疾患では、腸内細菌叢・脂質・糖鎖などのオミクス解析を通じた病態解明と、治療反応性や疾患活動性評価に資するバイオマーカー開発を進め、病態に基づく Precision Medicine の確立を目指しています。

さらに、大阪大学および関連医療機関と連携した多施設共同研究体制を整備しており、肝疾患では Osaka Liver Forum (OLF)、胆膵疾患では Osaka Pancreas Forum (OPF)、消化管疾患では Osaka Gut Forum (OGF) を基盤として、リアルワールドデータや臨床試料を活用した研究を推進しています。基礎研究に加えて、患者検体を用いた研究、多施設共同研究、国際共同研究へと発展させることが可能であり、大学院生にとっては、基礎と臨床を横断しながら幅広い研究手法と視点を身につけられる環境です。臨床研究・基礎研究を問わず、消化器疾患の本質に迫ろうとする知的好奇心と主体性を持ち、協調性とコミュニケーション能力を備え、自ら課題を設定して粘り強く探究できる方を歓迎します。